

しょうだ かずえ
勝田 主計 (1869~1948)



県人初の国務大臣。松山城下(現、松山市)出身。愛媛県松山中学校(現、県立松山東高等学校)在学中は、正岡子規や秋山真之らと親交があり、明治19(1886)年に東京の第一高等中学校(現、東京大学)へ進学してからは常盤会寄宿舍で子規らとともに生活し、野球や俳句に親しんだ。

帝国大学法科大学(現、東京大学)卒業後、大蔵省に入省。日露戦争後の公債の整理にあたったほか、東洋拓殖会社、韓国銀行(後、朝鮮銀行に改称)の設立など対外的な仕事に従事した。退官後、貴族院議員に勅選され、大正4(1915)年12月から大正5(1916)年10月まで朝鮮銀行総裁を務め、同年12月に県人初の国務大臣として寺内正毅内閣で大蔵大臣に就任した。その後、清浦奎吾内閣で再度大蔵大臣、田中義一内閣で文部大臣に就任した。

主計は、大蔵官僚出身で三度大臣になる特殊な経歴をもったが、朝鮮銀行総裁も含め、いずれも時の責任者の強い要請でその職に就いている。そのため在任中に手掛けた仕事は多く、大蔵大臣であったとき、強力な日中提携関係構築のため清国への積極財政の展開(西原借款)や、関東大震災後の復興のための外債発行などを手掛けた。

略歴

明治2(1869)年9月15日	松山城下の御宝町に松山藩士・勝田久廉の五男として生まれる。
明治16(1883)年	愛媛県松山中学校を卒業。在学中に、正岡子規・秋山真之らと親交を深める。
明治28(1895)年7月	帝国大学法科大学を卒業して、大蔵省に入る。
明治34(1901)年	2年間ヨーロッパに派遣される。
明治36(1903)年10月	国債課長に就任
明治38(1905)年11月	臨時国債整理局設置により第一課長に就任
明治40(1907)年5月	理財局長に就任
大正元(1912)年12月	大蔵次官に就任
大正3(1914)年	貴族院議員に勅選
大正4(1915)年12月	朝鮮銀行総裁に就任(同5年10月まで)
大正5(1916)年12月	寺内正毅内閣において、愛媛県人初の国務大臣として大蔵大臣に就任
大正13(1924)年1月	清浦奎吾内閣において、再度大蔵大臣に就任 前年発生した関東大震災からの復興にあたる。
昭和3(1928)年5月	田中義一内閣において、文部大臣に就任
昭和23(1948)年10月10日	80歳で永眠

(肖像画：愛媛県立松山東高等学校蔵)

〈関連図書〉

- ・勝田竜夫『中国借款と勝田主計』ダイヤモンド社 1972年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年

〈主な収蔵資料〉…(P203, 39~40)

〈ゆかりのある場所〉…(P277, 53)